

愛南町自分ごと化会議提案書

～ 観光施設のあり方について ～

令和8年3月

目次：

はじめに	2
1. 「愛南町自分ごと化会議」実施概要	3
2. 施設レビューの評価結果	5
3. ナビゲーター森本氏からの話題提供（要約）	6
4. 自分ごと化会議からの4つの提案	7
5. 個別施設に対する意見	
(1) 道の駅みしょう MIC	12
(2) 西海観光船	17
(3) 一本松温泉あけぼの荘	21
(4) フレッシュー本松	25
(5) 山出憩いの里温泉	29
(6) 須ノ川公園	33
(7) グリーンパークすのかわ	37
(8) ゆらり内海	41
6. 参加者アンケート結果（抜粋）	45

～ はじめに ～

愛南町長 中村 維伯 様

私たちは、町内の「観光施設のあり方」を考えるため、町で初めて開催された「自分ごと化会議」に参加しました。無作為抽出によって選ばれた参加の案内状を受け取った時は「なぜ自分が？」と戸惑いもありましたが、会場には地元の高校生からご年配の方まで、世代も職業も異なる多様な住民が集まり、約半年間にわたり、専門家を交えた「施設レビュー」と全3回の住民協議会を通じて、愛南町の未来について本音で真剣に議論を重ねてきました。

議論の出発点は、私たちが普段何気なく利用している観光施設の「厳しい現実」と向き合うことでした。会議の中で行政から示された、施設の深刻な老朽化や、維持・運営のために毎年多額の税金が赤字補填として投入されている事実、多くの参加者が「こんな状況だとは知らなかった」と衝撃を受けました。

しかし、その驚きは次第に、「施設があるのが当たり前だと思っていた」「このままでは将来の子どもたちに大きな負担を残してしまう」という当事者意識へと変わっていきました。現実を知ること、で、「もう行政だけの問題ではない」と、町の課題を自分ごととして捉えるようになったのです。

施設のあり方を話し合う中で、私たちの議論は「愛南町の観光はどうありたいか」「私たちはどんな愛南町で暮らしたいのか」という根本的な想いに行き着きました。会議では、「観光客を呼ぶために無理をして町の資源である自然や今のバランスを壊すのは本末転倒だ」「まずは住んでいる私たち自身が心地よく暮らせていないと、本当の魅力は伝わらない」という声が多く上がりました。私たちが望むのは、単に立派なハコモノを維持することではありません。愛南町の最大の魅力である「豊かな海や食」そして「人の温かさ」といった私たちの「暮らしそのもの」を守り、住民自身がそれを楽しみ、誇りに思うこと。そして、そのありのままの良さに共感してくれる人を増やし、移住先に選ばれたり子どもたちが将来戻ってきたくなるような愛南町をつくることです。

この提案書には、その未来を実現するための「住民の生の声」と「想い」が詰め込まれています。施設を未来に残すためなら、適正な料金への値上げを受け入れ、過大な設備は身の丈に合った規模へ縮小・統合していくこともやむを得ないのではないかと。そして、行政任せにするのではなく、まずは私たちが施設を利用し、その魅力を SNS などで発信していくという、住民自身も共に汗をかく決意を固めました。

これからの愛南町の暮らしをどう豊かにしていくかという視点から、この提案書を全庁的な体制で受け止めていただくことを強く望みます。そして、町と住民が同じテーブルにつき、町の課題や未来を共に語り合うこの素晴らしい取組みが、今回の一過性で終わることなく、愛南町の新しいまちづくりの「当たり前」としてこれからも続いていくことを心から期待しています。

令和8年3月
愛南町自分ごと化会議メンバー 一同

1. 「愛南町自分ごと化会議」実施概要

○テーマ：観光施設のあり方

愛南町では観光施設の老朽化が進んでおり、建て替えや大規模修繕が必要となる時期を迎えています。今後すべての観光施設を同規模で維持し続けることは、町の財政状況や人口動態を鑑みると、困難であることが予想されます。

そのため今後の観光施設のあり方について、無作為に選ばれた様々な人の視点を通して、観光施設をどうしていきたいかを住民参加型で議論をし、再編に向けた合意形成を図りました。

○対象となった観光施設：全8施設

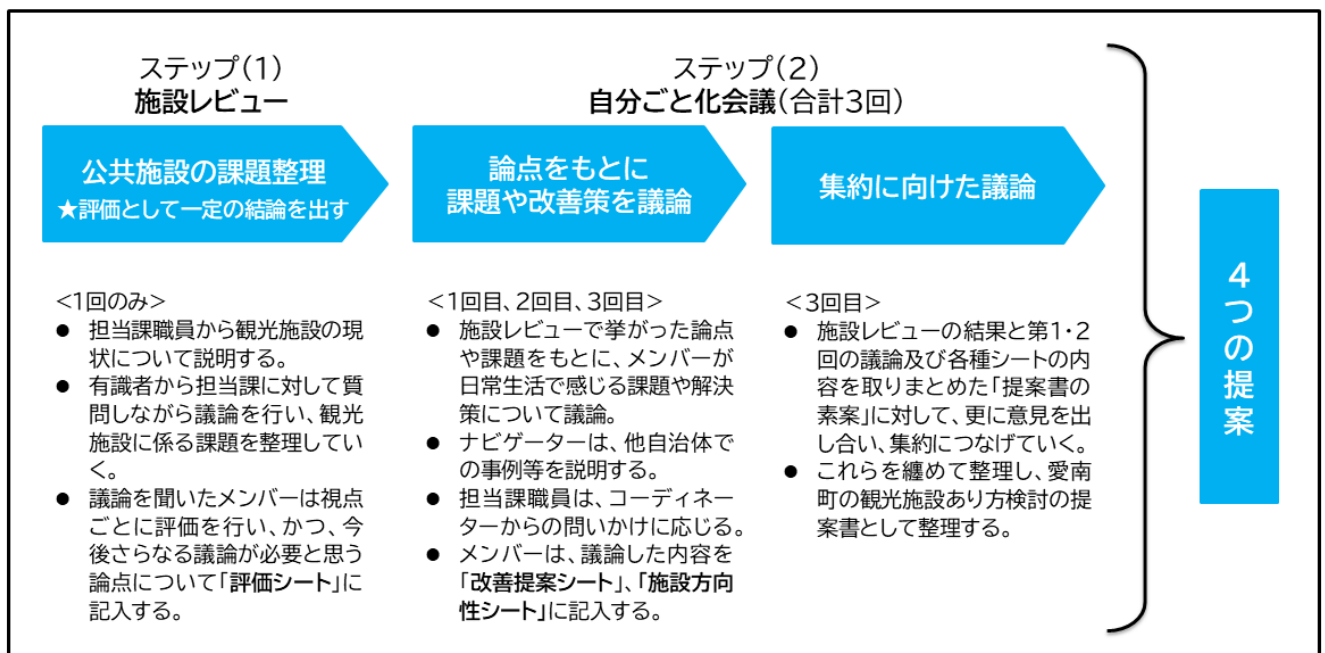
名称	所在地	施設所管課
道の駅みしょうMIC	愛南町御荘平城 4296-1	商工観光課
西海観光船	愛南町船越 1599	西海支所
一本松温泉あけぼの荘	愛南町増田 5470	一本松温泉あけぼの荘
フレッシュ本松	愛南町増田 5470	商工観光課
山出憩いの里温泉	愛南町緑乙 4082-1	商工観光課
須ノ川公園	愛南町須ノ川 288	内海支所
グリーンパークすのかわ	愛南町須ノ川 61	内海支所
ゆらり内海	愛南町須ノ川 286	商工観光課

○議論の進め方

「観光施設のあり方」を議論するために2つのステップを経ました。

ステップ1として、施設レビューを実施しました。これは、外部有識者と担当課の議論を通じ、施設の現状と課題、論点の整理を行った上で、町民参加者が施設のあり方（ハード面）と実施事業（ソフト面）の両方について、実施時点での評価を示すものです。

施設レビューで明らかになった課題と論点・評価を基に、ステップ2として自分ごと化会議を実施しました。町民参加者同士の生活実感に基づく議論を3回経て、観光施設のあり方について意見の集約を図りました。



○参加者

1) 自分ごと化会議メンバー

無作為に抽出し案内を送付した数	1,000 件
応募者数 (応募率)	20 人 (2.0%)
参加者数 ※うち、無作為抽出 20 人、高校生 4 人	24 人

2) コーディネーター (議論の進行役)

秋元 真彦 (一般社団法人構想日本 プロジェクトマネージャー)

3) 外部有識者 (施設レビューのみ参加)

藤田 倫成 (和歌山県海南市役所管財情報課 課長)

室田 明里 (株式会社アンドアイ 代表取締役社長)

森本 健次 (株式会社南山城 代表取締役社長)

○テーマ及び各回の議論

●観光施設の課題整理 (施設レビュー) : 令和7年10月11日 (土)

- 「道の駅みしょう MIC」他7施設の施設レビューを実施 (各施設の現状や課題の説明など)

●第1回自分ごと化会議 : 令和7年11月8日 (土)

- ナビゲーター 森本氏 (株式会社南山城 代表取締役社長) の話題提供
- 「道の駅みしょう MIC」について議論
- 「施設方向性シート」、「改善提案シート」の記入など

●第2回自分ごと化会議 : 令和7年12月20日 (土)

- 第1回会議振り返り
- 「道の駅みしょう MIC」、「西海観光船」、「一本松温泉あけぼの荘」、「フレッシュ一本松」、「山出憩いの里温泉」について議論
- 「施設方向性シート」、「改善提案シート」の記入など

●第3回自分ごと化会議 : 令和8年2月7日 (土)

- 第2回会議振り返り
- 「須ノ川公園」、「グリーンパークすのかわ」、「ゆらり内海」について議論
- 「愛南町自分ごと化会議提案書」素案を基に議論
- 「施設方向性シート」、「改善提案シート」、「意見提出シート」の記入など

<施設レビューの様子>



構想日本撮影

<自分ごと化会議の様子>



構想日本撮影

2. 施設レビューの評価結果

施設所管課と外部有識者 3 名との議論を通じて、外部有識者と参加者は「区分 1：施設のあり方」及び「区分 2：実施事業」の両方について「廃止・見直しが必要・現状維持・拡充」の 4 段階で判定を行い、多数決によりレビュー時点での最終的な評価を決定した。

※外部有識者の評価は参考として扱う。

1. 道の駅みしょう MIC

評価結果	区分 1：施設のあり方	現状維持
	区分 2：実施事業	現状維持

2. 西海観光船

評価結果	区分 1：施設のあり方	現状維持
	区分 2：実施事業	見直しが必要

3. 一本松温泉あけぼの荘

評価結果	区分 1：施設のあり方	現状維持
	区分 2：実施事業	見直しが必要

4. フレッシュ本松

評価結果	区分 1：施設のあり方	現状維持
	区分 2：実施事業	見直しが必要

5. 山出憩いの里温泉

評価結果	区分 1：施設のあり方	見直しが必要
	区分 2：実施事業	見直しが必要

6. 須ノ川公園

評価結果	区分 1：施設のあり方	現状維持
	区分 2：実施事業	見直しが必要

7. グリーンパークすのかわ

評価結果	区分 1：施設のあり方	廃止
	区分 2：実施事業	見直しが必要

8. ゆらり内海

評価結果	区分 1：施設のあり方	現状維持
	区分 2：実施事業	現状維持

3. ナビゲーター 森本氏からの話題提供（要約）

「村で暮らし続けること」を企業のミッションに掲げる元村役場職員の森本健次氏（株式会社南山城 代表取締役社長）をナビゲーターに迎え、人口2,200人の村にある日本一の道の駅「お茶の京都 みなみやましろ村」の実例から話題提供をいただいた。

■逆転の発想とブランディング ～単なる売店づくりではなく、地域と住民の誇りを取り戻す～

① 村茶（むらちゃ）の存在

近隣地の宇治茶ブランドが強く、南山城村は産地として認知されていなかった。そこで、一般的なブレンド茶ではなく、あえて単一農家・単一品種にこだわり、生産者の顔が見えるお茶として商品化し、質の高さをアピールした。結果、1日1,400本売れる抹茶ソフトクリームが誕生し、これを食べるために村外人が来るようになった。

② テーマカラー

生産物そのものだけでなく、それを支えてきた村人の営みや暮らしにこそ価値があると考え、お茶の緑ではなく、農作業着（もんぺ）の藍色を採用。

③ 役所のシールはブランドではない

書類を出して基準を満たせば『認証シール』がもらえるという形式的なブランド認定よりも、住民が「友人が来た時に、ここのソフトクリームを食べに連れて行く」「どこかへ友達に会いに行く時に、地元のプリンを手土産に提げて持って行く」。そうやって住民自身が愛着と誇り（シビックプライド）を持てることこそが、地域ブランドの原点と考える。

■愛南町への3つの提言

「昭和の観光」からの脱却

×古い観光 大型バスで団体客を呼び、一度だけ消費してもらう。

○新しい観光 地域の日常や文化に深く触れ、地元の人と交流し、愛着を持って何度も来てもらう（関係人口）。

道の駅は町のダイジェスト

道の駅は単なる売店ではない。

その町にどんな暮らしや文化があるのかを伝える「入り口（ダイジェスト）」であるべき。

つなぎ役（中間組織）が必要

海・山・食・文化という最高の素材があるが、それらがバラバラになっている。

役場と住民・漁師・農家などを繋ぎ合わせ、全体をコーディネートする中間組織が不在ではないか。

■Q&A



Q. 道の駅ができて、村の人口は増えましたか？

A. 自然減があるので総人口は増えていません。でも、活躍する人口は増えました。高齢者が生きがいを持って出荷したり、移住者が定着したり。地域のお荷物ではなく稼ぐ拠点として、住民の意識が変わったことが最大の成果です。

Q. 愛南町は資源（魚、真珠、柑橘…）が多すぎて絞りきれませんか！

A. 何も無い地域からすれば贅沢な悩みです。入り口としては、通年あって分かりやすい柑橘がキャッチーではないでしょうか。そこから食事にはこれ、お土産にはこれと整理していくのが良いと思います。

■参加者の「気づき」

- ・観光客をどう呼ぶかばかり考えていたが、「まず住民が幸せでないと観光客も来ない」という言葉にハッとしました。
- ・役場任せ、住民任せではなく、全体を繋ぐ「中間組織」の話は今の町の課題そのものだと感じた。

4. 自分ごと化会議からの4つの提案

本提案は、各委員が会議ごとに記入した「評価シート」、「改善提案シート」、「施設方向性シート」や各回の協議内容を踏まえて取りまとめたものです。

提案 1. 住民が自らの暮らしを楽しみ、地域への誇りを育むことで、結果として観光客にも選ばれる愛南町をつくる

提案 2. 将来に負担を残さず、施設の価値を高める持続可能な運営体制をつくる

提案 3. 部署や官民の垣根を越えて連携し、エリア全体で相乗効果を生み出す運営体制をつくる

提案 4. 生活の賑わいを守りつつ、観光や防災の機能を現実的に確保する

提案

1. 住民が自らの暮らしを楽しみ、地域への誇りを育むことで、結果として観光客にも選ばれる愛南町をつくる

観光振興に注力するあまり、愛南町の最大の魅力である自然が損なわれたり、施設運営に無理が生じたりすることには懸念の声がありました。「住民が普段から使う場所や、今の住民の充実感こそが、観光客にも魅力的に映る」という視点が重要だと考えます。また、子どもたちが、観光資源である地元の食や文化を深く知るといった教育を行い、将来の定住や持続可能な地域づくりが必要です。

私たちも、観光を行政任せにせず、まずは自分たちが地元の海や食を楽しみ、その魅力を発信することで、住民の誇りがそのまま最大の観光 PR となる環境をつくりまします。

提案1の実現に向けてそれぞれが行うこと	
私たち住民	<ul style="list-style-type: none"> ● 「いつでも行ける」と思わず、西海観光船などを一度は利用してみて、その魅力を確認する。 ● ありのままの愛南町や自分が体験して感じたことを、友人・知人におすすめしたり、SNSで発信してPRする。あわせてSNS発信の勉強に努め、発信力を向上させる。 ● 今の暮らしや文化、自然を大切にする。 ● 地元の産業と連携していく。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光のあり方について住民が共通認識を持つ。 ● カクテルなど、愛南の特産品を使った新しい商品を開発し続ける。 ● 近くの高校生を連れて海洋教育を行うなど、地域の資源を学ぶ機会を作る。 ● 移住者に対して「どこから来たの？ここおすすめだよ」と温かく声をかけるなど、迎える側の言葉ひとつで町の印象が変わることを意識する（移住者対応マニュアルの作成など）。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 「いつ、どこで、何ができるのか」看板等で分かりやすく整備する（長年住んでいる人でも分からない場所がある）。 ● 観光地化よりも、人のつながりや愛南町が好きで住んでくれる人（移住者）への支援・イベントに予算を使う。 ● 移住者の意見を「本当の意味で」聞き、柔軟に汲み取る行政の仕組みづくりを行う。 ● マラニックやサイクリングイベント等、町外の参加者が現地を味わえる活動に力を入れる。 ● 一目でわかる観光情報を取りまとめ、制度を活用して作成する。作成に当たっては多様な属性の者に参加してもらう。 ● 観光パンフレットを高速道路のSAや空港、駅などに設置したり、テレビで取り上げられたニュースをSNSで積極的にシェアしてPRの幅を広げる。

提案 2. 将来に負担を残さず、施設の価値を高める持続可能な運営体制をつくる

多くの施設で低料金が維持される一方、不足分が税金で補填されている現状があります。「安すぎる料金設定が、かえって施設の価値を下げている」という指摘もありました。愛南町の観光を永く残していくためには、適正な受益者負担への見直しと、維持費のかかる設備の縮小など、身の丈に合ったダウンサイジングが不可欠ではないでしょうか。ハード面の縮小を単なる削減とせず、体験や教育などソフト面の価値を高めることで、適正価格でも納得して利用される環境も必要です。

提案2の実現に向けてそれぞれが行うこと	
私たち住民	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設維持のために料金が上がっても、変わらず利用し続ける。 ● 町外の友人などに、あけぼの荘などの施設を積極的にアピールして利用してもらう。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 単に施設を利用するだけでなく、「船上プロポーズ」や「特別料理」など、高くても利用したくなる体験プランを開発する。 ● 西海観光船などを「海洋教育の場」として活用し、単なる観光利用以上の価値（教育効果）を付加する。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 値上げに見合うよう、部屋や食事の質を高める。ランチや夕食にも力を入れる。 ● 硬直化した料金を変えるため、恐れずに条例改正のプロセスを進める。 ● 需要に見合わない過大な設備（大きな観光船や維持費のかかる源泉かけ流し等）は、更新時に「小型化」や「機能縮小」を行い、維持費を抑制する。 ● 町民と町外客で料金を分けたり、繁忙期価格や県民割引などを導入したりする。 ● 今後の高速道路延伸を見越して、駐車場・アクセス・想定される利用者等を考案する。 ● 「直径〇〇cm 以内のファッションタワーは可」とするなど、現代のニーズに合わせた入浴ルールの見直しを行う。

提案 3. 部署や官民の垣根を越えて連携し、エリア全体で相乗効果を生み出す運営体制をつくる

「商工観光課（ソフト担当）」と「支所（ハード担当）」の部署間の連携不足や、公園・温泉・キャンプ場など近接する施設が個別に運営されている現状に対し、改善を求める声が多くありました。愛南町でしか味わえない魅力的な体験を提供するためには、部署の枠を超え、民間（指定管理者）のアイデアも柔軟に取り入れられる体制が不可欠だと考えます。

私たちも共に知恵を出し合い、施設や組織が一体となって地域全体の価値を高める環境をつくりま

提案3の実現に向けてそれぞれが行うこと	
私たち住民	<ul style="list-style-type: none"> ● 西海観光船と石垣の里、紫電改展示館などをセットで回るプランを自分で楽しんでみる。 ● 施設の統合やバイキングの移転など、柔軟なアイデアを出し続ける。 ● 運営のサポートなど、自分にできることは何でも協力する。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の方向性転換や統合に対し、商工会として全面的に支援・参画する。 ● 地域商社を作る。 ● 住みよい地域にしていく。 ● 外から来てくれる人に優しくする（地域のことを分かってもらう説明をしていく包容力を持つ）。 ● 今ある暮らしや文化、自然を大切にする。（再掲）
行政	<ul style="list-style-type: none"> ● あけぼの荘とフレッシュ本松の統合や、温泉施設の集約など、施設の垣根を越えた再編を行う。 ● 須ノ川公園など、県有地の管理負担について、県と協議を行い、エリア全体を一体的に管理・運営できる体制を構築する。 ● 愛南町内部の連携だけでなく、県や国とも積極的に連携する体制をつくる。 ● 物販、発信、食事に加え、加工や観光を展開できるよう場所を新設する。（道の駅）

提案 4. 生活の賑わいを守りつつ、観光や防災の機能を現実的に確保する

現在の道の駅は、町民の生活インフラとして定着し、経営も安定しているため、現状維持を望む声が多い一方で、浸水想定区域における防災拠点としての課題や、観光の玄関口としての機能・情報発信力の不足を懸念する意見もありました。これらを一箇所ですべて解決しようとするのではなく、機能ごとに役割を分担することこそが現実的な解決策ではないかと考えます。生活の利便性を維持しながら、観光や防災に必要な機能を適正に配置し、無理なく持続できる環境づくりが必要です。

提案4の実現に向けてそれぞれが行うこと	
私たち住民	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の道の駅がなくならないよう、日常的な買い物や手土産の購入に利用し、現在の黒字経営を支え続ける。 ● 「道の駅は浸水する場所にある」と正しく認識し、災害時はMICに逃げるのではなく、自分たちで高台へ避難する行動をとる。 ● 観光案内所がない分、住民が知っているディープな情報を口コミサイト（GoogleマップやTikTok）に書いたりして、情報の隙間を埋める。 ● 運営のサポートなど、自分にできることは何でも協力する。（再掲）
地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅内の空きスペースを活用し、住民が撮った写真を展示したり、高校生が考えたモデルコースを掲示したりして、手作り感のある情報発信コーナーを作る。 ● カクテルや加工品など、地元の特産品を使った新しいお土産を開発し、道の駅の売り場を魅力的にする。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅は現在の場所で「まちの駅（生活・物販拠点）」として存続させ、不足する防災機能は、高台にある学校跡地（緑小学校等）や公共施設を活用して確保する方針を検討する。 ● 「狭い」という最大の不満を解消するため、隣接する土地（裏の田んぼ等）を活用して駐車場を広げる交渉を進める。 ● 道の駅3.0の要件を満たすためだけに巨額投資（高台への移転新築）をするのは避け、身の丈に合った維持管理を選択する。 ● 物販、発信、食事に加え、加工や観光を展開できるような場所を新設する。（道の駅）（再掲）

5. 個別施設に対する意見

(1) 道の駅みしょう MIC

《道の駅みしょう MIC の議論のポイント》

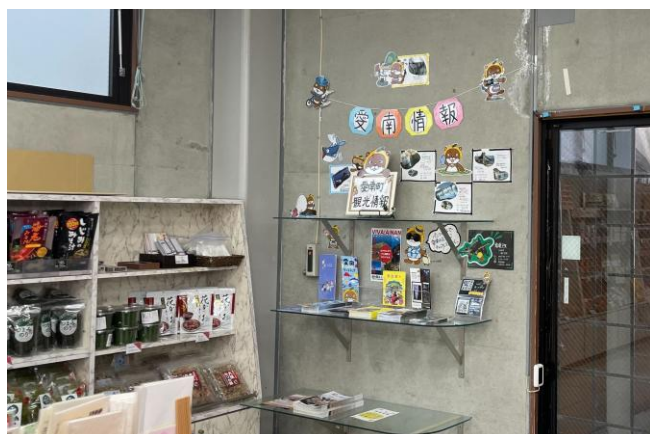
施設レビューでは、売上が右肩上がり、黒字経営を続け、利用者の約7割が町民という「稼ぐ力」と「地域密着」の強みが高く評価されました。一方で、築28年が経過し老朽化が進んでいることや、駐車場が手狭であること、さらに浸水想定区域にあるため国が求める道の駅の「防災拠点」としての機能が満たせない点が課題として指摘されました。

これを受け自分ごと化会議では、「巨額の税金をかけて高台へ移転・新築すべきか」「生活利便性の高い現在地を維持すべきか」について議論が交わされました。参加者からは「高台に移転しても誰も行かないハコモノになる恐れがある」「買い物弱者のために今の場所が必要」といった現実的な意見が多く出されました。

結論として、全てを新設で解決するのではなく、MICは現在地で「まちの駅（買い物・交流の場）」として存続させて住民の暮らしと独自の「稼ぐ力」を伸ばし、不足する「防災機能」は高台の学校跡地などを活用して別途確保するという「機能分担（ハイブリッド案）」が現実的な解として支持されました。



愛南町撮影



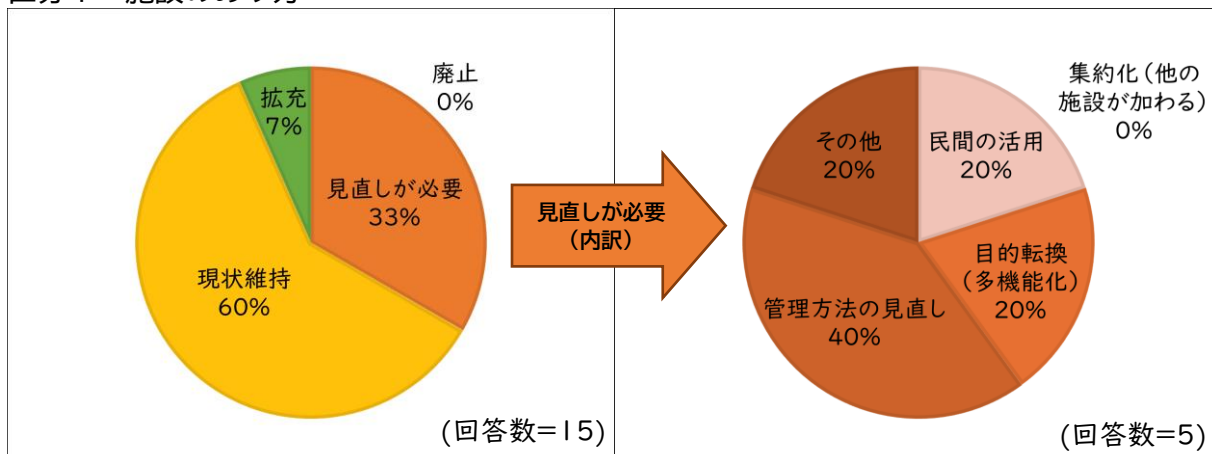
構想日本撮影



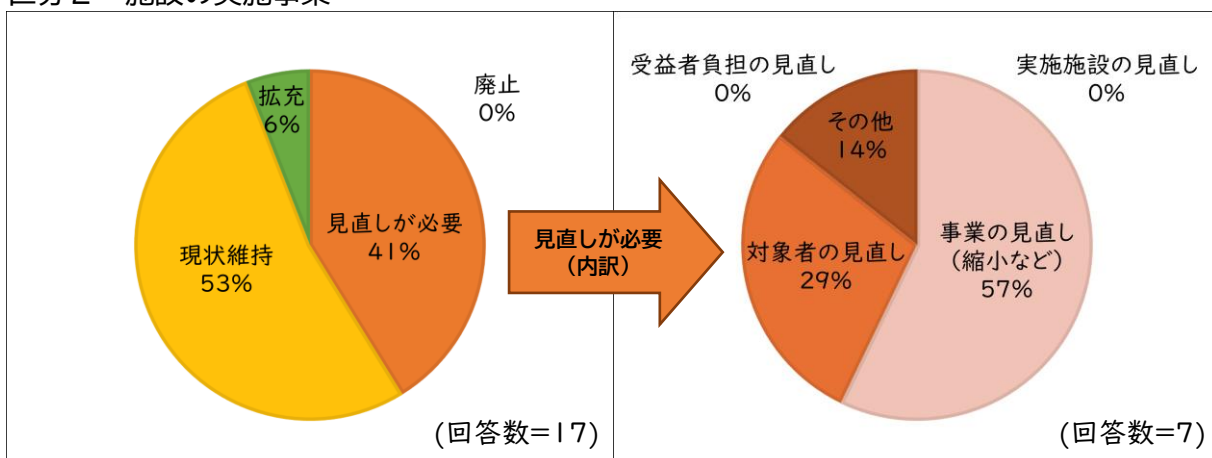
愛南町撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(見直しが必要)

- 集約化(他の施設が加わる)
 - ・ 他の施設との連携をとって、みしょう MIC が観光の窓口になる。
- 管理方法の見直し
 - ・ 減額、無償での建物贈与も進めるべき。
 - ・ 今後、指定管理から外すことも検討する。道の駅としての活用になっていないのでは。
 - ・ 運営上、足かせになるのであれば道の駅の認定を外す。
 - ・ 防災拠点として考えるのであれば場所を変える(移転)も考慮すべき。
- その他
 - ・ 売場面積が狭く、別敷地移転を考えないと先が乏しい。

(現状維持)

- ・ 場所も愛南町の中心部で交通量も多く、西海の入口前にあることも利用しやすい。事業としてみた場合、今のままでも問題ない。

(拡充)

- ・ 駐車場の拡大、防災機能の向上が必要。
- ・ 現状維持をするためにも施設の改修又は建て替えが必要。

<区分2 施設の実施事業について>

(見直しが必要)

- 事業の見直し(縮小など)

- 観光客が MIC に一点集中しているため、各地に分散させるための方法を考える。
- 休憩所があまり使えない。利用できるような工夫が必要。
- 国土交通省の道路情報室は広めのスペースだが、人が入っていない。
- **対象者の見直し**
 - 集客を地元に限らず、場所や建物に関しては保守的になり過ぎている。他の地域からの集客も考えなければ道の駅の役割ははたせない。

(現状維持)

- 今のままでも愛南町の観光規模には合っている。

《自分ごと化会議で出された論点別意見のまとめ》

自分ごと化会議では、施設レビューの評価に基づき、「防災機能の確保と地域交流拠点の維持」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

論点①：立地と防災機能（移転・新設・現状維持）について

論点②：施設機能の課題（駐車場・トイレ等）について

論点③：施設の役割（観光拠点・生活拠点）について

《論点①：立地と防災機能（移転・新設・現状維持）について》

（ハイブリッド・機能分担）

- ・ 現在の MIC は経営力もあり立地も良いので「まちの駅」として残し、防災機能を持たせた拠点を別に新設するハイブリッドコースが良い。
- ・ 防災拠点は必要だが、現在の MIC をなくすと町民の買い物の場がなくなる懸念があるため、機能分担が現実的。
- ・ 防災拠点は新設ではなく、廃校（小学校跡地）などの既存の箱を活用すればよいのではないか。
- ・ 将来的な人口減少を想像したときに、町中で買い物をしている人がどれだけ減るかの想定が今から必要。

（現状維持・まちの駅）

- ・ 現在地が最も利便性が良く、集客力があるため現状維持が良い。山の上に作っても誰も行かないハコモノになる恐れがある。
- ・ 新設や移転には多額の費用がかかるため、将来の負担を考えると現状地で良い。
- ・ 仮に「まちの駅」にした場合、国交省管理のトイレ・情報発信部分が町の所有に変わることが考えられ、将来的に改修費が大きく必要になると思われる。
- ・ そもそも全国の道の駅が防災拠点や避難所として活用されている事例がどれくらいあるのか疑問。

（新設・移転）

- ・ 南海トラフ地震等の災害を考えると、浸水区域にある現状のままでは不安であり、高台への新設・移転が必要。
- ・ まちの駅として残すかどうかは、関係者で決めると良いと思うが、災害時のことを考え、基本的には高台に新設し、新しい愛南町の顔になる「道の駅」を作るのが良い。
- ・ 生活・観光拠点であれば現状がベストだが、建物の老朽化や高速道路の延伸といった条件を加味して将来的には新築は検討する必要がある。

《論点②：施設機能の課題（駐車場・トイレ等）について》

（設備改善）

- ・ 駐車場が狭く、大型バスが入るのが難しいため拡充してほしい。
- ・ トイレや床などの老朽化が進んでおり、汚い現状があるため、大規模改修が必要。
- ・ 防災面でも、現在の場所では狭すぎるし改修にも費用がかかる。

《論点③：施設の役割（観光拠点・生活拠点）について》

（役割の再定義）

- ・ 観光情報や地域の行事・伝統芸能など、愛南町の魅力発信機能には改善の余地がある。
- ・ 利用者の大半が町民であり、「観光施設」というよりは「生活の場（スーパー）」に近いため、無理に観光拠点とせず「交流機能（物販）」に特化しても良い。
- ・ 観光拠点として考えると、新設が良い。その場合、施設の機能全てを一つのところに任せるのではなく、物販であれば現状の指定管理者、情報発信は観光協会等色々な主体に入ってもらいたい。できてしまえば、それが日常になる。重要なのはどのように PR していくのか、どのように活用していくのか。

《その他》

- ・ 町の財政と将来的な人口減少を考えると、税金を使うよりも今の指定管理者に施設も含め運営を任せる形が良いのではないか。
- ・ 物販に関して、その場所にあるから売れるのか、目当ての物があるから売れるのかの分析は必要。観光に関してもニュアンスは重要ではないか。
- ・ 店頭での会話も観光体験と捉え、重要視する。

《施設方向性シートに記入のあった「施設の方向性」の集計結果》

- ①現状地・まちの駅コース（賑わい・利便性特化）：2人
- ②高台移転・新道の駅コース（防災・安全特化）：1人
- ③ハイブリッドコース（機能分担）：8人

(2) 西海観光船

《西海観光船の議論のポイント》

施設レビューでは、利用者がピーク時の16万人から約6,000人へと激減（ピーク時の4%以下）し、老朽化した船の維持や修繕に多額の公金（一般会計から約2,650万円繰入）が投入されている厳しい経営実態が明らかになりました。一方で、愛南町の最大の観光資源である海を船の中から見ることができる希少性は高く、廃止論ではなく「地域の誇り（シビックプライド）」や「観光の核」として存続を望む声が根強いことも確認されました。

これを受けた自分ごと化会議では、「誇りとは言うが、なぜ住民は乗らないのか」という鋭い問いから議論が始まりました。「いつでも行けるという安心感」「ワクワク感が足りない」といった心理的な壁が指摘され、ハード面の維持費削減とソフト面の魅力向上の両立が必要であるとの認識が共有されました。

結論として、「海中が見える船」という他にはない強みは維持しつつ、定期便の本数の見直しや運行方法の変更、将来の船の更新時には身の丈に合った「小型船」へダウンサイジングもしくは船舶数を削減してコストを抑える方向で合意しました。あわせて、待合所のカフェ化やイベント活用などで「待つ時間」の価値を高め、町民が人を連れてきたくなる施設を目指すこととなりました。



愛南町撮影



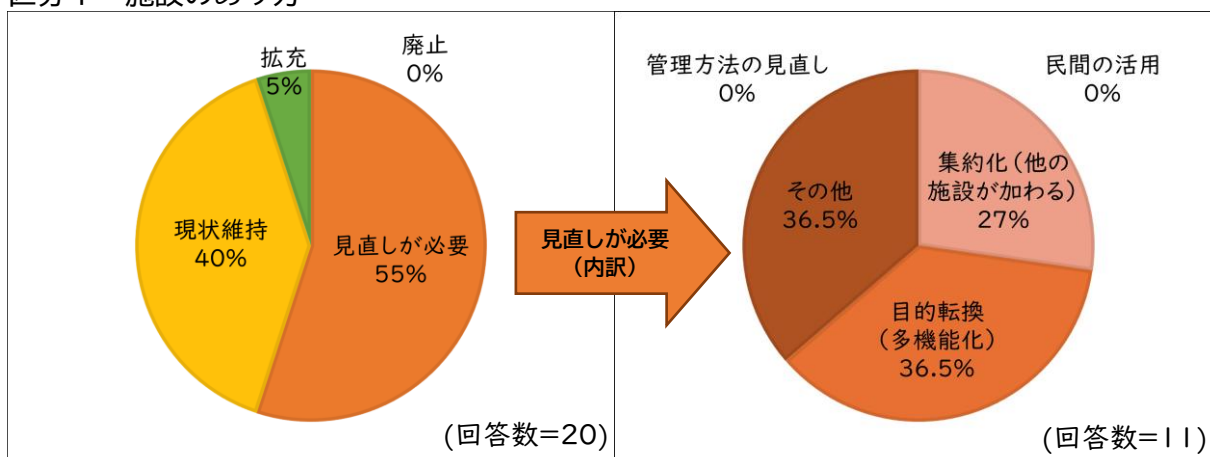
構想日本撮影



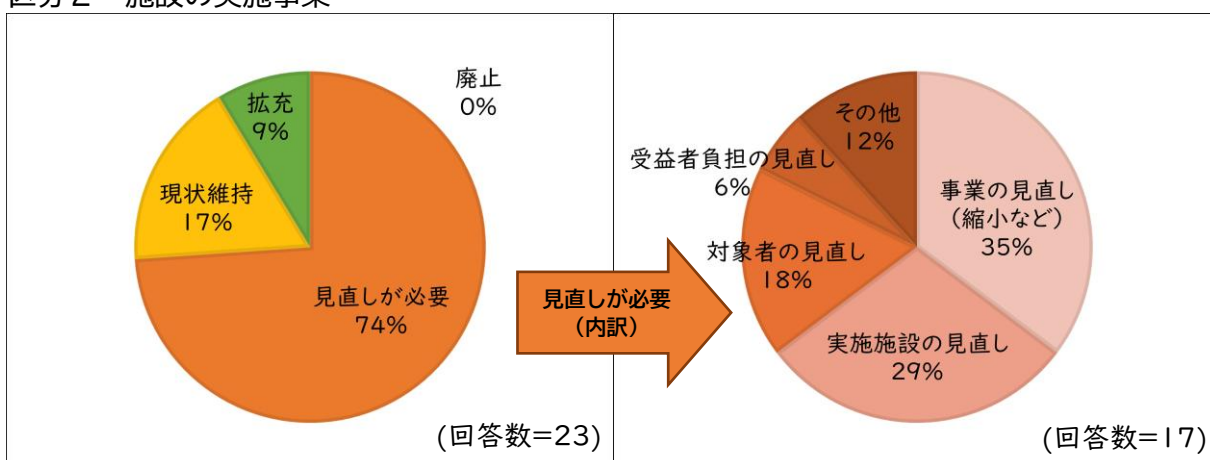
構想日本撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(見直しが必要)

- その他
 - ・ 2隻必要か。現状を考えると1隻で良いのでは。
 - ・ 冬場に出航出来ない時、瀬ノ浜案内所が閑散としていてもったいない。冬場でも立寄りやすい施設になれば良い。

(現状維持)

- ・ 施設としては必要であり、特にダイバーは可処分所得が高いので、間違いなく町内にお金が行っている。ここを廃止すると経済全体に影響を及ぼすことになる。
- ・ 特に夏、県外から知人が来た時に分かりやすい「観光レジャー」として有難い存在。
- ・ 「海」はこの土地でないと見に来る意味がないもの。海の生態系の調査や海の大切さを教える場になっている。
- ・ 西海の観光船、鹿島、石垣の里、高茂岬も含めての愛南の主要観光スポットでは有るので、今後も継続して行って欲しい。

<区分2 施設の実施事業について>

(見直しが必要)

- 事業の見直し (縮小など)
 - ・ 団体予約等で団体客をもっと引き込める仕組みを考える。
 - ・ これからの修繕費用や現状の利用者数を考えると、小型船へ入れ替える。
 - ・ 運航方法を見直し予約制にする。1時間ごとの定期便の数の見直しが必要。
 - ・ 冬期の特別なイベントを増やせたら、集客につながるのではないか。

- 愛南の海の物、小学生が作ったもののお土産があったら良さそう。
- 石垣の里—観光船—紫電改の周遊プランをセットにする。

《自分ごと化会議で出された論点別意見のまとめ》

自分ごと化会議では、施設レビューの評価に基づき、「シビックプライド（地域の誇り）の継承と持続可能な運営」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

論点①：存続の意義と価値について

論点②：運営コストと船のあり方について

論点③：利用促進とコンテンツ開発について

《論点①：存続の意義と価値について》

（愛南町の象徴としての価値）

- ・ 全国的にも珍しい「座ったまま海中が見られる」船の希少性を再認識し、残してほしい。
- ・ 足摺宇和海国立公園の海は、ここに来ないと見られないもので、愛南の海を見てもらいたいという気持ちがある。
- ・ 観光船は外の人に向けてあるべきもの（利用してもらうことが価値）。外から来る人へのおもてなしの場として存在価値がある。
- ・ ダイビング等、地域観光全体への波及効果（宿泊・飲食への経済波及）があり、ここを廃止すると経済全体に影響を及ぼす。
- ・ 町民は、「いつでも来れる」「あるのが当たり前」と思っているが、町外の人には魅力を感じている。町内外の人たちが魅力を感じられるものにすれば、さらに存在価値は上がる。
- ・ 60年も事業が続いてきたのは、町民にとって「この事業は良いものだ」という誇りがあるからではないか。

《論点②：運営コストと船のあり方について》

（設備更新とコスト削減）

- ・ これからの修繕費用や集客を考えると、大型船ではなく小型船へ入れ替える。
- ・ 利用率を考えたら1隻でも良いのではないかと。または、閑散期には貸切やチャーターで使えるような柔軟な運用ができると良い。
- ・ 安全性が一番大事。船舶が老朽化しているので、その投資を削ってはいけない。
- ・ 「いかに客数を増やすか」ということを考えると小型化は方向性に合っていないと思う。方向性を定めることが先かもしれない。

《論点③：利用促進とコンテンツ開発について》

（町民利用・集客・リピート策）

- ・ 町内の人には「いつでも行ける」と思って乗らないため、町民割やフリーチケット配布など、町民がお客さんを連れて行くきっかけを作る。
- ・ 一度自分が乗って体験してみる。そこで感じたことをSNS等を利用してPRする。
- ・ 現地に着いてから船に乗るまでの「わくわく感」の演出や、待合所でのストーリー提供が必要。
- ・ 夏以外のシーズンオフでも楽しめる建物の使い方や、四季折々の魅力の発信。船内で体験できるイベント（船上レストラン、船内カフェ、婚活等）を増やす。
- ・ 石垣の里、紫電改展示館などとセットにした観光プランを売り出す。
- ・ 近くの高校生を連れて、海洋教育をするプログラムなどに協力する。
- ・ 需要を増やすために、投資をしてより魅力的にしていく。
- ・ 料金設定や運行内容などを類似の取組みを行っている所（徳島県の観光船等）を参考にする。

(3) 一本松温泉あけぼの荘

《一本松温泉あけぼの荘の議論のポイント》

施設レビューでは、黒字だった時代の名残で町直営を続けているが、現在は人件費（支出の4割）や経費の高騰により一般会計から約4,800万円もの赤字補填がなされている実態が問題視されました。また、入浴料や宿泊料が相場より著しく安く設定されており、適正な受益者負担がなされていない点や、条例により柔軟な価格変更ができない硬直的な運営体制が課題として浮き彫りになりました。

自分ごと化会議では、「赤字を垂れ流してまで安く提供すべきか」「民営化すべきか」について議論を重ねました。その結果、まずは直営のまま「条例を改正してでも適正価格へ値上げ」し、自力で稼げる体質へ改善すべきという意見が大勢を占めました。

結論として、各種料金は値上げをすることとし、変動制の料金設定や朝食の提供は合宿利用客のみにするなど収入増とコスト削減の両方の観点から収支改善にアプローチすることとされました。それでも収支が改善しない場合に改めて、指定管理や民営化への移行を検討するという段階的な改革案で方向性が固まりました。



愛南町撮影



愛南町撮影



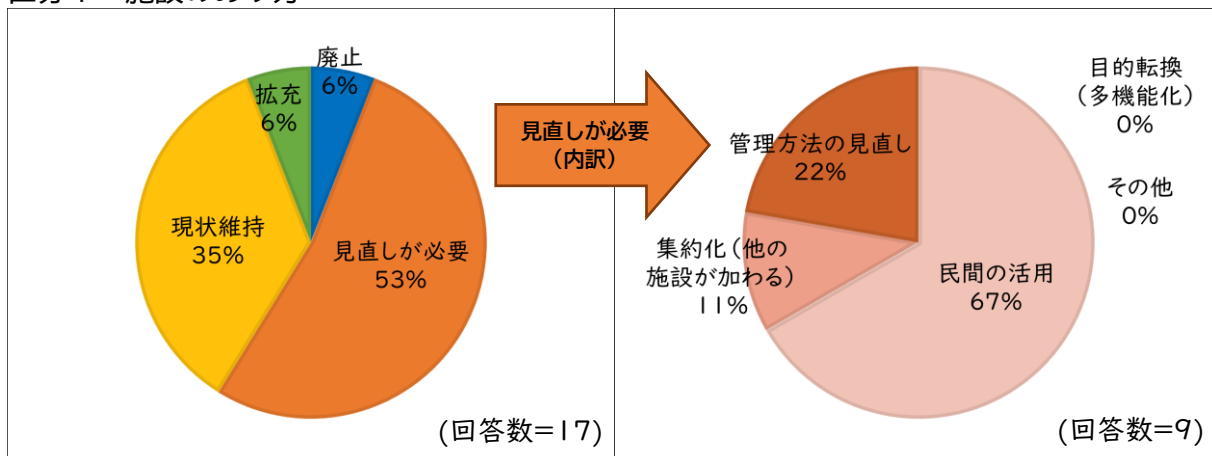
愛南町撮影



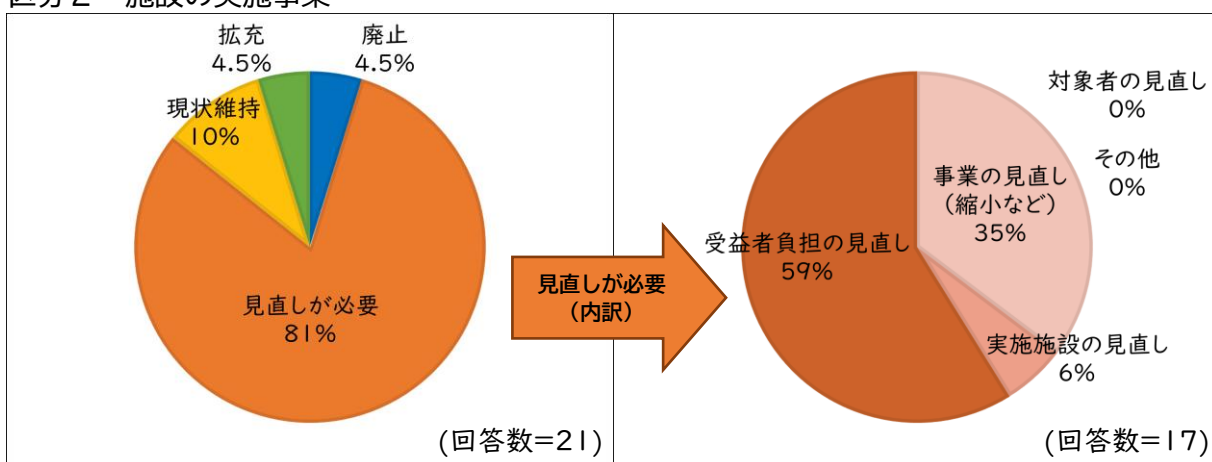
愛南町撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(廃止)

- ・ 民間の宿が増えているので、観光のためであればなくても良い。

(見直しが必要)

- 民間の活用
 - ・ 指定管理制度の導入。
- 集約化(他の施設が加わる)
 - ・ フレッシュ本松との一体化を行う。

(現状維持)

- ・ 子ども達の合宿には良い施設。

(拡充)

- ・ 愛南町は合宿の聖地になりつつあるので、部屋数も含め宿泊人数をもう少し受け入れできるようになれば良いと思います。
- ・ 高知県からの利用客も多いので、安定したネット回線・環境を整えるなどビジネス面に対しても強くしていく。

<区分2 施設の実施事業について>

(見直しが必要)

- 事業の見直し(縮小など)
 - ・ 釣り客・お遍路客は素泊まり、合宿客がある際にのみ朝食提供でも良いのでは。
 - ・ 宿泊施設は時期限定でも良い?(お盆・正月のみとか)。

- 宿泊料金は固定せず繁忙期、閑散期、通常期を作って料金設定をする。
- 地域住民で会話ができる人材の活用（温泉マイスターなど）。
- インバウンド対応の強化が必要。
- **受益者負担の見直し**
 - 山出憩いの里温泉・ゆらり内海と同じタイミングで、入浴料・宿泊費は値上げする。
 - 町民と町外居住者の利用料は分けても良い。
 - 宿泊費を倍にしてサービスや体験の増加を検討。

(拡充)

- 幼児用プールが使われていないのなら魚釣り体験などアミューズメントの検討。

《自分ごと化会議で出された論点別意見のまとめ》

自分ごと化会議では、施設レビューの評価に基づき、「持続可能な運営に向けた受益者負担と経営形態」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

論点①：料金改定と条例改正について

論点②：運営形態と施設のあり方について

論点③：サービス向上と収益確保について

《論点①：料金改定と条例改正について》

(値上げへの賛成)

- ・ その時代に応じて改定していく必要があり、入浴料・宿泊料を適正価格にするため条例改正は必須である。
- ・ 近隣ホテルと比較しても格安であり、ホテル不足や価格高騰の現状を踏まえれば、値上げしても良いのではないかと。
- ・ 入浴料を 100 円上げれば数百万円の収入増が見込めるため、銭湯代わりに使う町民も理解し、時代に合わせて見直すべき。
- ・ 全てを値上げすると利用率が下がる可能性があるため、県外観光客向けに値上げし、県民や町民は現状維持にするなど、二重価格を検討する。

《論点②：運営形態と施設のあり方について》

(運営体制)

- ・ 条例を改正するというプロセスを経て、まずは直営のまま収支改善を図り、それでも厳しければ指定管理や民営化を考えるべき。
- ・ 直営をやめ、指定管理者制度や民営化を導入することでコスト削減を図るべき。

(施設統合の可能性)

- ・ 町内に温泉施設が複数あるため、ゆらり内海などと統合し、あけぼの荘を町指定の大きい温泉観光施設とした方が集客や財政面で有利ではないかと。

《論点③：サービス向上と収益確保について》

(宿泊・飲食の改善)

- ・ 釣り客、合宿客、お遍路客、ビジネス客などの需要に沿えるサービス（素泊まり、ネット環境整備等）を提供する。
- ・ 宿泊料金は固定せず、繁忙期・閑散期で変動料金制を導入してもよい。
- ・ 朝食事業の廃止による人件費削減案があるが、釣り客やお遍路さん等の早朝需要や、スポーツ合宿の受け入れは慎重に対応する方がよい。
- ・ 部屋や食事の質を高め、高品質なサービスを提供することで単価を上げる。

《施設方向性シートに記入のあった「施設の方向性」の集計結果》

- ① 直営をやめ、指定管理者制度や民営化を導入する：0人
- ② 条例を変えてでも、入浴料・宿泊料を適正価格へ値上げする：10人
- ③ 税金を投入してでも、今のまま直営・安価で残す：0人
- ④ 他施設との統合：1人

(4) フレッシュ一本松

《フレッシュ一本松の議論のポイント》

施設レビューでは、売上に対する仕入れ原価率が約8割と高く、利益が出にくい構造や出荷者の高齢化、品薄により午後には商品棚が空になり機会損失が生じている点が指摘されました。また、移動販売事業は採算性が低いものの、買い物弱者支援や見守りとしての機能が強く、純粋な観光事業というよりも地域福祉の側面が強いという、事業の性格の曖昧さが課題として挙げられました。

自分ごと化会議では、「観光施設として稼ぐべきか、福祉として割り切るか」が主な論点となりました。議論の結果、引き続き観光施設として位置付けつつ、移動販売は赤字であっても地域福祉としての重要な役割があるため、観光収益とは切り分けて継続すべきとの合意に至りました。

店舗運営については、隣接するあけぼの荘とレジシステムや運営機能が分かれている非効率さが指摘され、これらを統合して経費削減を図る、もしくは本施設を廃止してあけぼの荘内での物販を行う方向性が示されました。また、住民側も「家庭菜園の余剰野菜を提供する」など、品揃え不足の解消に協力する姿勢がありました。



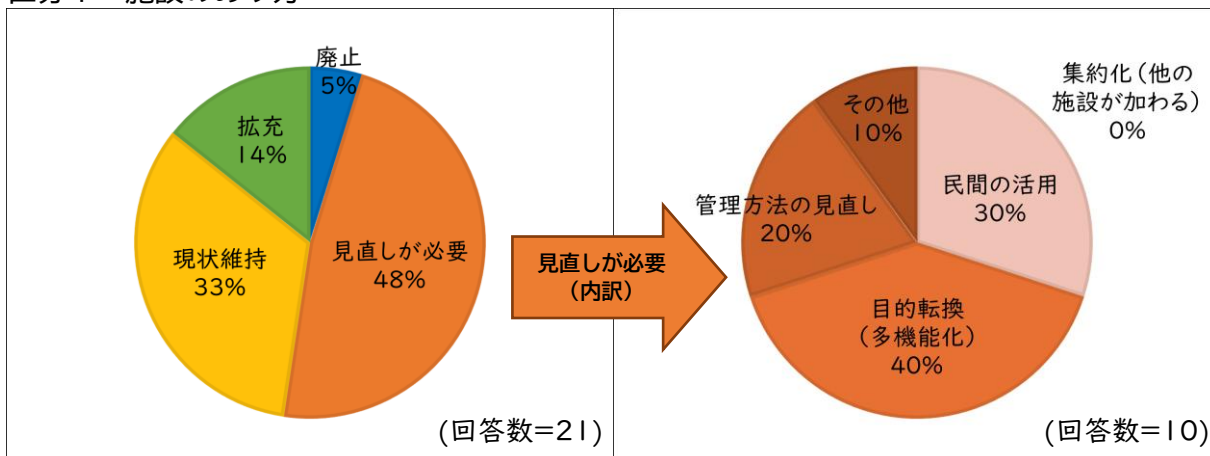
愛南町撮影



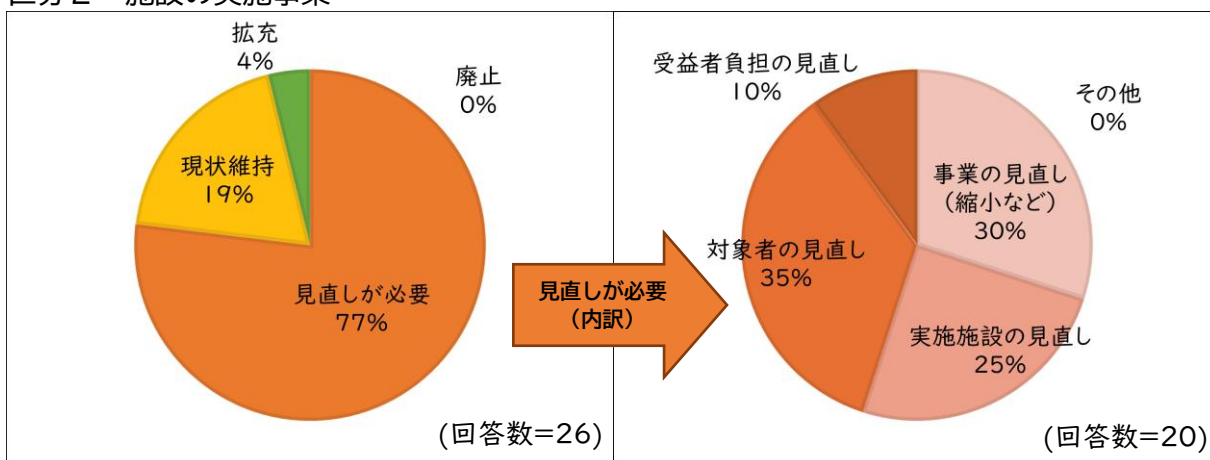
構想日本撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(見直しが必要)

- 民間の活用
 - ・ 20～30年後には施設が老朽化する。個人経営でも問題ないのでは。
- 集約化 (他の施設が加わる)
 - ・ 一本松あけぼの荘と同じ建物で買い物も温泉も宿泊もできる総合施設にすれば便利になる (電気代の節約にも繋がる)。
- 目的転換 (多機能化)
 - ・ 防災の面で、備蓄品を置いておける場所にしてほしい。
- その他
 - ・ 移動販売は観光なのか。行うのなら出張施設として実施しても良いのでは。
 - ・ 生産者が減っているのであれば大きな販売スペースは必要ない。
 - ・ 観光ではなく一本松の商店のような存在。

<区分2 施設の実施事業について>

(廃止)

- ・ 移動販売は、廃止したほうが良い。

(見直しが必要)

- 事業の見直し (縮小など)
 - ・ 品物が補充されず、午後買い物に行っても欲しい物が無い。午後からの時間が現状のままではもったいない(利益をうまない)。
 - ・ 仕入れ品が多いので利益を上げにくい。一本松地域の特産品または愛南町の特産品を使っ

た商品の開発等をして販売するのも良い。フレッシュ一本松ならではの商品が必要。

- ・ 出品手数料が高いことを理由に出品をしたくてもできない人がいる。
- その他
 - ・ 移動販売のみにする。
 - ・ 移動販売は地域福祉にも関わることなので、ルート開拓及び見直しを行う必要がある。

(現状維持)

- ・ 移動販売は凄く良い取組みだと思うので、地元企業の協力を視野に入れ、続けて欲しい。

(拡充)

- ・ 一本松で働いている身からすると、唯一生鮮物品販売を行っている場所なので販売する物品の増加を望む。

《自分ごと化会議で出された論点別意見のまとめ》

自分ごと化会議では、施設レビューの評価に基づき、「地域福祉施設としての側面と観光施設としてのあり方」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

論点①：施設の方向性と機能統合について

論点②：移動販売（地域福祉）のあり方について

論点③：商品・サービスの改善について

《論点①：施設の方向性と機能統合について》

（あけぼの荘との統合・連携）

- ・ あけぼの荘と同じ建物で、買い物も温泉も宿泊もできる総合施設になれば便利であり、光熱費や人件費の節約にもなる。
- ・ あけぼの荘と一体化し、スポーツ施設を含めたエリア全体での活性化を図る。
- ・ 廃止してあけぼの荘に統合が良いのではないか。

（施設の存続意義）

- ・ 一本松の商店のような存在であり、お年寄りには良い場所なので存続してほしい。
- ・ 生産者が減っているのであれば、あんなに大きな販売スペースは必要ないのではないか。

《論点②：移動販売（地域福祉）のあり方について》

（福祉的価値の重視）

- ・ 移動販売は地域福祉の面にも関わってくるため、ルート開拓および見直しを行う必要がある。
- ・ 移動販売のみの収支で考え、高齢者の見守り強化など地域福祉として残すべき。

（担い手と継続性への懸念）

- ・ 移動販売の今後の担い手を考えると継続できるか不安があるため、山出憩いの里温泉の弁当配達等と統合する。
- ・ 人を雇用しないと野菜販売の道は険しく、福祉として捉えるとコストが高くなるため、消極的廃止も視野に入る。

《論点③：商品・サービスの改善について》

（品揃えの課題）

- ・ 午後、品薄となってしまう点への対応（県外からの出荷者増、惣菜の充実など）が必要。午後からの時間が現状のままではもったいない。
- ・ 一本松ならではの商品開発や、加工品・お土産の数を増やすべき。
- ・ 一本松温泉あけぼの荘の物販をこちらに統合する。

（魅力向上）

- ・ 一本松温泉あけぼの荘の入浴客の需要があるはずなので、アイスクリームはPRを強化しつつ現状維持。
- ・ イベントの復活やPR強化が必要。
- ・ ワクワク感を演出する工夫が必要。

《施設方向性シートに記入のあった「施設の方向性」の集計結果》

- ① 観光施設として現状維持：6人
- ② 福祉施設として提供サービスの絞り込み：2人
- ③ 廃止：2人
- ②と③の間：1人

(5) 山出憩いの里温泉

《山出憩いの里温泉の議論のポイント》

施設レビューでは、源泉かけ流しという贅沢な湯使いが売りである一方、冷泉を温めるための燃料費が高騰し（年間約1,000万円）、経営を著しく圧迫している現状が確認されました。また、町内で唯一の就労継続支援（障がい者雇用）施設としての側面も持ち合わせており、単純な経済合理性だけでは判断できない難しさがあることも共有されました。

自分ごと化会議では、「温泉へのこだわりを捨てるべきか」「福祉雇用をどう守るか」が議論されました。参加者からは、燃料費がかさむかけ流しや大浴場の維持は困難であるとして、循環式への変更や家族風呂のみへの縮小（大浴場のみ廃止）を受け入れるべきだという現実的な意見が相次ぎました。

結論として、温泉機能は縮小しつつ、愛南町唯一のドッグランやペットと泊まれるログハウス、愛南町の食材が楽しめるバイキングという独自の強みに特化して集客を図り、福祉施設としての雇用も守りながら生存を目指す方向性が示されました。



愛南町撮影



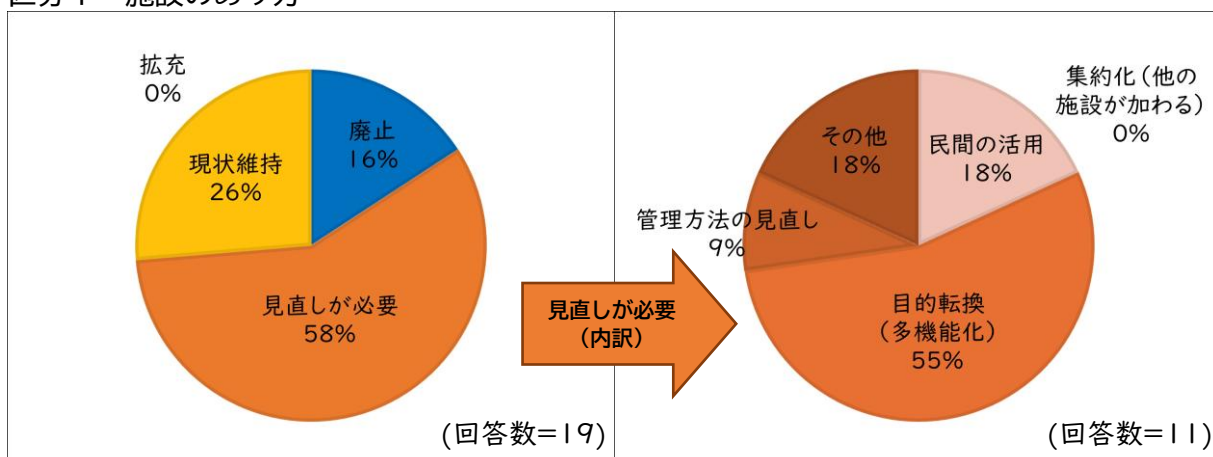
愛南町撮影



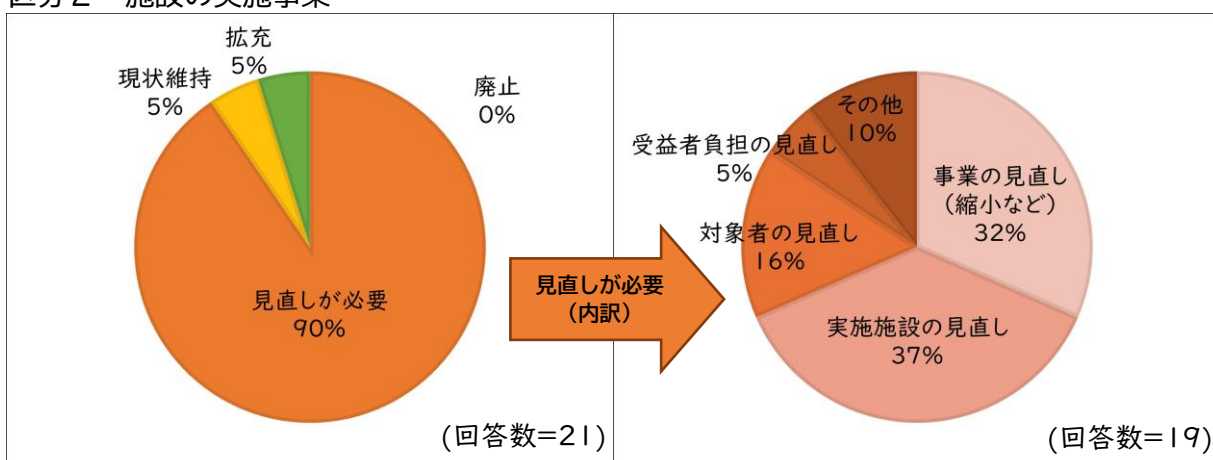
愛南町撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(廃止)

- ・ 費用がかかるのであれば温泉は廃止する。あけぼの荘とゆらり内海だけで良い。
- ・ 高級ホテル化しないのであれば廃止すべき。

(見直しが必要)

- 目的転換 (多機能化)
 - ・ 他の温泉施設にはないドッグランの魅力を強く押し出す。
 - ・ 観光施設というよりは、現状、福祉施設のように感じられる。
 - ・ 水際のロッジのように、高級ホテル化していく。
 - ・ 県外の学校の宿泊先として活用する (自然体験)。

<区分2 施設の実施事業について>

(廃止)

- ・ 平日利用は廃止でも良い。
- ・ 大浴場は廃止、家族風呂を活用するのは良いと思います。

(見直しが必要)

- 事業の見直し (縮小など)
 - ・ 温泉は源泉かけ流しでなくても良い。(循環型にする)
- 受益者負担の見直し
 - ・ 犬の料金設定の値上げ。

(拡充)

- 冷泉を温めることを体験コンテンツとして提供する。
- 売店を充実させる。
- キャンプ場としては車両を横付けできるスペースがあると良い。

《自分ごと化会議で出された論点別意見のまとめ》

自分ごと化会議では、施設レビューの評価に基づき、「観光と福祉の両立および高コスト構造の改善」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

論点①：施設の方向性（観光・福祉・統合）について

論点②：独自コンテンツの活用と集客について

論点③：運営コストと設備の改善について

《論点①：施設の方向性（観光・福祉・統合）について》

（存続・特化の議論）

- ・ 観光施設として現状維持しつつ、営業日などを見直すべき。
- ・ 温泉単体での黒字化は厳しいため、老人ホームや高級リゾート化などに力を入れていく必要がある。
- ・ 温泉・宿泊というよりも、福祉施設（就労支援・配食）として提供サービスの絞り込みを検討すべき。
- ・ レストラン機能があけぼの荘と重複しているため統合し、別の機能を検討する。

《論点②：独自コンテンツの活用と集客について》

（強みの活用）

- ・ ドッグランは愛南町で唯一の機能であり、ペットの同伴需要があるため残すべき。
- ・ ログハウスは家族で泊まれるメリットがあるため維持してほしい。
- ・ バイキングは地産地消で愛南の食を楽しめる貴重な施設。営業日の増加及び PR を強化する。
- ・ 川や岩などの自然環境自体が、都会の人には感動される資源なので「山の観光」として活用する。

（他事業との連携）

- ・ 指定管理者が行っているアマゴ（魚）の養殖事業と合わせて売りになる事を考える。

《論点③：運営コストと設備の改善について》

（燃料費対策）

- ・ 源泉かけ流しは燃料費が高騰しているため、循環式にするなど対策が必要。
- ・ 入浴機能は縮小（かけ流し（大浴場）は廃止し、家族風呂のみ残す）し、飲食・宿泊施設に特化する。

《施設方向性シートに記入のあった「施設の方向性」の集計結果》

- ① 観光施設として現状維持：7人
- ② 福祉施設として提供サービスの絞り込み：2人
- ③ 他施設との統合：1人
- ①と②の中間：1人

(6) 須ノ川公園

《須ノ川公園の議論のポイント》

施設レビューでは、国立公園内という絶好のロケーションにありながら、県有施設を町が全額負担で維持管理している契約の不公平さや、安すぎる価格設定（1人当たり300円の清掃協力金）、インターネット予約不可による機会損失が大きな課題として挙げられ、税金を投入して維持しているにも関わらず、収支は約1,000万円の赤字である現状が共有されました。

自分ごと化会議では、県との契約は見直していくことを前提に議論を行い、施設のポテンシャルについて熱心な議論が交わされました。参加者からは、「友人を連れてシーカヤックをした際、『他所のようにブイや網でエリア制限がされておらず、自由に漕げるのが素晴らしい』と感動された」という実体験や、「夕日が沈む景観は特別」といった声上がり、この場所ならではの価値が再確認されました。また、単独で考えるのではなく、隣接するグリーンパークすのかわやゆらり内海を含めた「須ノ川エリア」全体で魅力を高めるべきとの意見で一致しました。

結論として、国立公園内の美しい景観やマリナクティビティの自由度、きれいに管理された芝生という強みを安売りせず、清掃協力金の値上げを行うこと、ネット予約の導入で確実に収益性を高めること、そして隣接施設と一体のエリアとして運営することで魅力を高め、持続可能な管理体制を構築する方向性が示されました。



愛南町撮影



構想日本撮影



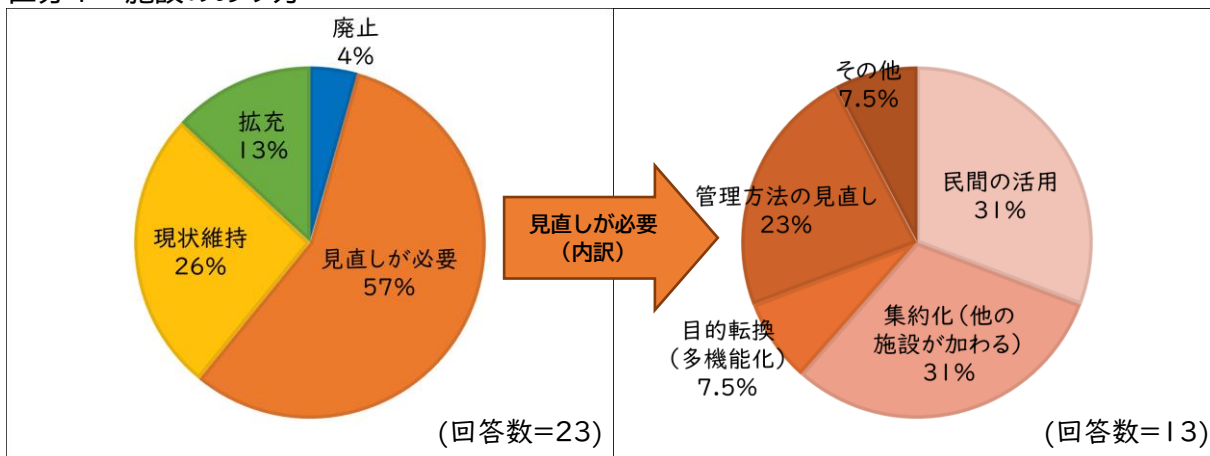
構想日本撮影



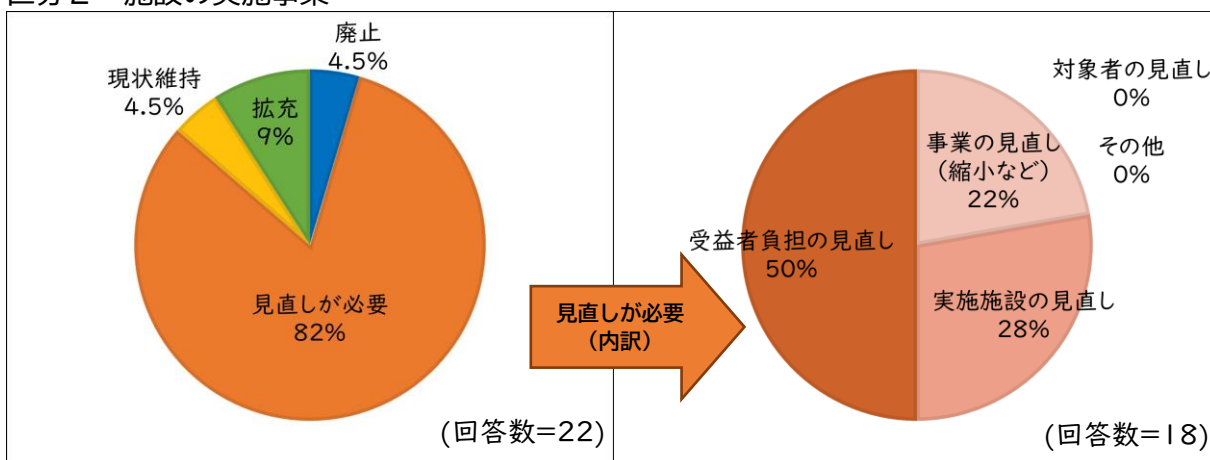
構想日本撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(見直しが必要)

- 集約化(他の施設が加わる)
 - ・ グリーンパークすのかわ・ゆらり内海と一体で考え、宿泊、休憩、食事などエリアで完結できると良い。
- 管理方法の見直し
 - ・ 県有地を無償で、愛南町が維持管理し続けていく事に違和感を感じる。
 - ・ 県との委託契約の資料が見当たらないのなら、新たな契約を結んでみたらどうか。
 - ・ 県と協議をした上で、国立公園内の樹木管理を専門業者に委託ができるようにする。
 - ・ 内海支所と商工観光課で担当が分割されており効率が悪い。
- その他
 - ・ 名称の変更はイメージアップに繋がるのではないかな。

(現状維持)

- ・ 通勤途中によく見る風景やイルミネーションは、管理者の努力によって成り立っていたのだと思うと存続してほしい。
- ・ 愛南町の入口として景色も素晴らしいので、このまま維持してほしい。

(拡充)

- ・ ドームテント(ホテル)の設置。海水浴場としてもっと展開する。
- ・ 野外映画館として活用する。

<区分2 施設の実施事業について>

(見直しが必要)

● 事業の見直し（縮小など）

- ・ 県外の人に魅力を感じてもらえるようなアクティビティを充実させる。
- ・ 来園者に対するイベントや来園者がキャンプ客としてリピーターになってくれるような仕掛けに予算を掛けて収益を上げる。
- ・ web での評価は良いのにそこから予約できないのは本当にもったいない。利用者を増やしたいなら導入すべき。
- ・ 今の時代に合わせた売店・お店などを考える。夏場、海に行ったらたくさんの方がいたので、浮き輪やおにぎりなどがあると良い。

● 受益者負担の見直し

- ・ 利用料 1 人 300 円はやはり安い。大人は 700 円ぐらいでもよい。
- ・ 利用料金は、ゆらり内海の入浴割引券など付けるなどして、利用者にもメリットがあればアップしても良いと思う。

《自分ごと化会議で出された論点別意見のまとめ》

自分ごと化会議では、施設レビューの評価に基づき、「須ノ川エリアのハブとしての魅力向上と持続可能な管理」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

《論点①：施設の方向性とエリア連携について》

《論点②：キャンプ場・公園の魅力向上と情報発信について》

《論点③：利用料金と管理体制について》

《論点①：施設の方向性とエリア連携について》

(グリーンパーク・ゆらり内海との一体化)

- ・ キャンプ事業は隣接するグリーンパークすのかわと一体化させ、旧内海中学校グラウンドを駐車場として活用するなど、事業を統合してエリア全体のイベント会場として活用する。
- ・ 施設ごとの売りだけでなく、自然環境も含めたエリア全体の観光マップを作成する（季節ごとの一押し食材や夕日がきれいな時間など、このエリアで一日滞在できる情報を盛り込む）。
- ・ 駐車場からゆらり内海に向かう際に横断歩道のない所で道を渡る者が多い。安全面も考えて横断場所を設定もしくは移動させる。

《論点②：キャンプ場・公園の魅力向上と情報発信について》

(コンテンツの充実・PR活動)

- ・ 近隣に購入できる場所が少ないため、キャンプ用品やBBQ食材を購入できる場所を増やして機能を充実させる。
- ・ イルミネーション等のイベントを実施し、いつ・いくらで・何ができるのかをしつこいくらいにSNS等でアピールする。
- ・ 網やブイなどの制限がなく、自由にシーカヤックで海に出られる点はこの場所ならではの魅力なので積極的にアピールする。
- ・ 平日や冬場には利用率が下がることから、中学生や小学生がキャンプ場を利用しながら海のことを学ぶ、教育の場としても活用する。

《論点③：利用料金と管理体制について》

(受益者負担の見直し)

- ・ テントサイトはもう少し利用料金を上げて納得して支払ってもらえるのではないか。

(7) グリーンパークすのかわ

《グリーンパークすのかわの議論のポイント》

施設レビューでは、知名度が低く利用者が低迷（稼働率約4%）している上、利用者一人当たり多額の税金が投入されている「高コスト体質」が厳しく指摘されました。また、隣接する須ノ川公園と機能や役割が重複しており、あえてこの施設を単独で維持する意義が薄れているとして、レビュー時点では「廃止」の判定も出されました。

自分ごと化会議では、「存在自体を知らない」という声がある一方、「即廃止して更地にするのはもったいない」「まだやれることがあるのではないか」という再活用を模索する意見が多く出されました。具体的には、須ノ川公園との差別化を図るため、ペット同伴可能なキャンプ場（ドッグラン併設）への転換や、プライベート感を活かしたグランピング、あるいは学校等の教育・研修利用など、ターゲットを絞った機能転換が議論されました。

結論として、単独での存続は厳しいため、須ノ川エリアの一部として統合的に管理しつつ、まずは隠れ家的な雰囲気や区画サイトという特性を活かした機能転換（ペット特化等）で集客改善を図る方向性が示されました。ただし、それでも改善が見られない場合は廃止も視野に入れるという条件付きの存続で整理されました。



愛南町撮影



構想日本撮影



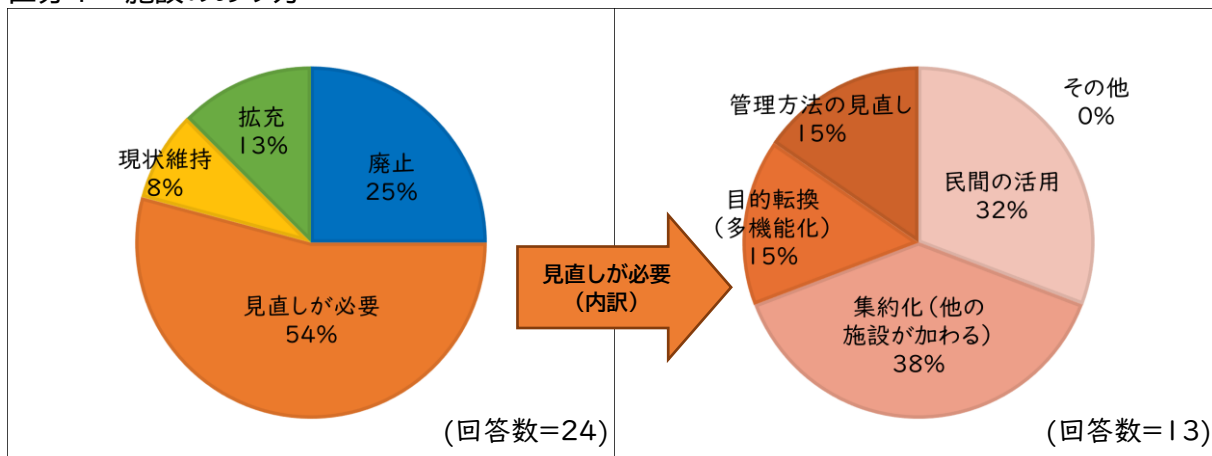
構想日本撮影



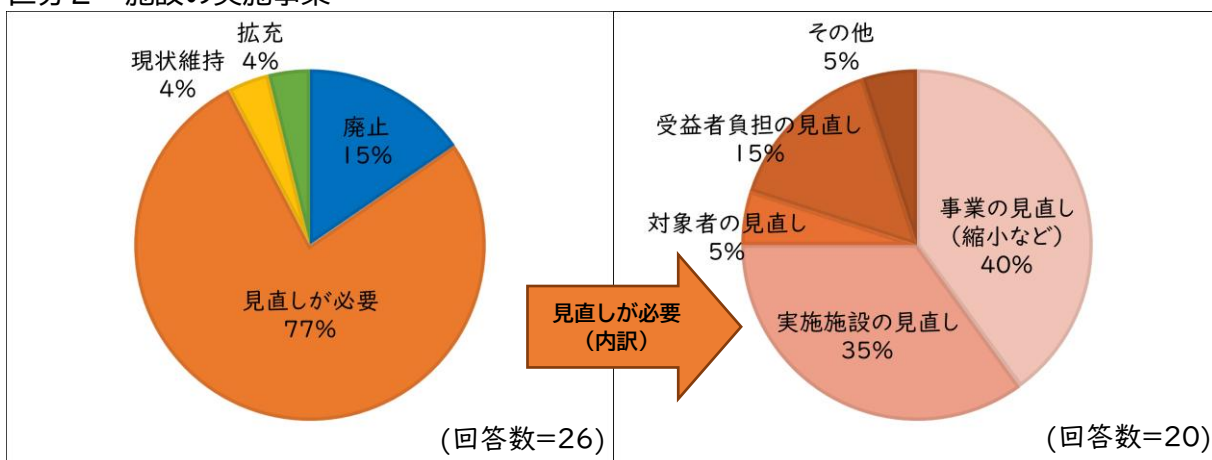
構想日本撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(廃止)

- ・ 須ノ川公園と別物というのも初めて知った。キャンプ事業で採算が取れていないのなら、須ノ川公園だけで良いのでは。

(見直しが必要)

- 集約化(他の施設が加わる)
 - ・ 須ノ川公園とひとまとめにして施設の事業を縮小して営業する方が良いのではないか。
- 目的転換(多機能化)
 - ・ ゆらり内海の駐車場にする。
 - ・ コンテナホテルや別荘を作って涼しく過ごせる場を設ける。
 - ・ 山出憩いの里温泉のバイキングをここで行う。
 - ・ 湯布院のように、他事業者を集め、多くの店舗を出して観光地として盛り上げる。
 - ・ 花を植えて植物園のように使う。
 - ・ 自然学校としての活用。
- その他
 - ・ 収入は見込めないので、せめて支出との差を広げないよう見直していくしかない。
 - ・ 国道沿いにあるが、目立っていない(町民でも知っている人は少ない)。キャンプ場とのことだが、ただの公園だと思っていた。

<区分2 施設の実施事業について>

(見直しが必要)

- 事業の見直し(縮小など)

- ・ 特別感を出す為に「1組限定」など完全予約制の導入・利用料の値上げ。
- ・ 利用期間を3ヶ月間などに決めて営業期間を狭くすれば、維持管理が楽になるのでは。
- **受益者負担の見直し**
 - ・ 利用料金の見直しが必要。

《自分ごと化会議で出た意見のまとめ》

自分ごと化会議では、「存在感の向上と施設機能の転換」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

《論点①：施設の存続とエリア統合について》

《論点②：新たな機能の付加と差別化について》

《論点③：環境整備とアクセスの改善について》

《論点①：施設の存続とエリア統合について》

（須ノ川公園との統合・廃止の検討）

- ・ 須ノ川公園と役割がかぶっているため、須ノ川公園と一体化・統合するのがベスト。
- ・ 維持が可能なら統合を視野に入れ、単独での保持ができないなら廃止（または中腹より上部の開発）も検討する。
- ・ 完全に廃止して人の手が入らなくなると治安的に危なくなる可能性があるため、何らかの利用ができるよう維持が必要。

《論点②：新たな機能の付加と差別化について》

（ターゲットを絞った転換）

- ・ 須ノ川公園との差別化を図るため、ドッグランを併設してペット同伴可能なキャンプ場へ転換したり、グランピング施設等の新しい施設を作る。
- ・ 現在のあまり認知されていないミステリアスな雰囲気を活かし、最低限の環境を保ちながらアトラクションづくりを行う。

《論点③：環境整備とアクセスの改善について》

（安全性と利便性の向上）

- ・ 大きい車では入りにくく、国道からも目立たないため、利用しやすくなるよう道路の拡張やアクセスの整備が必要。
- ・ 夜は暗くて怖い印象があるため、一定の時間帯まで明るさを維持し、安心感を与え「おもてなし」を強める。

(8) ゆらり内海

《ゆらり内海の議論のポイント》

施設レビューでは、経営努力により指定管理料を圧縮し黒字化のポテンシャルがある施設と評価されましたが、人気に対して駐車場が圧倒的に不足しており、レストランや入浴客の機会損失が発生している点が最大の課題とされました。また、県への借地料支払いや、将来的なサウナ改修費用などのコスト懸念も指摘されました。

自分ごと化会議では、須ノ川エリアのハブ（中心）と位置付ける意見が集中しました。駐車場不足については、隣接するグリーンパークや須ノ川公園の駐車場をシェアし、徒歩での回遊性を高めることで解決する案が支持されました。また、キャンプ客向けに食事のデリバリーを行ったり、テラス席を活用して水着のまま食事ができるようにするなど、エリア内での連携強化が提案されました。また、施設側から完全バリアフリーであるという強みが説明され、車いす利用者にとっても貴重な施設であることが共有されました。

結論として、接客の良さや食事のおいしさ（愛南の食）という高い強みをさらに伸ばすため、高単価メニューの開発や2階休憩室の有効活用（カフェや娯楽スペース化）を進めるとともに、エリア全体の案内役や食事提供の拠点として、3施設一体での収益最大化を目指す方向でまとめられました。



愛南町撮影



愛南町撮影



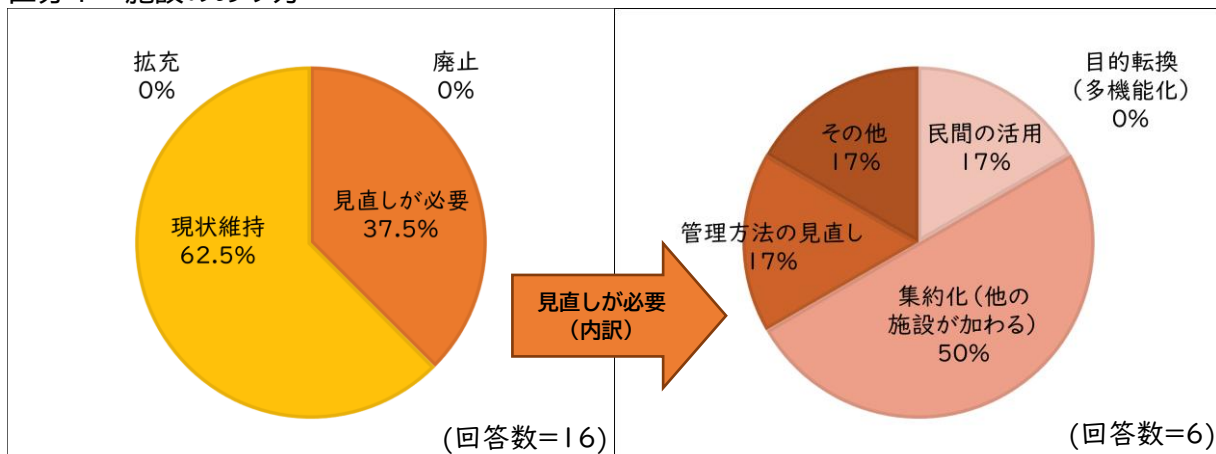
愛南町撮影



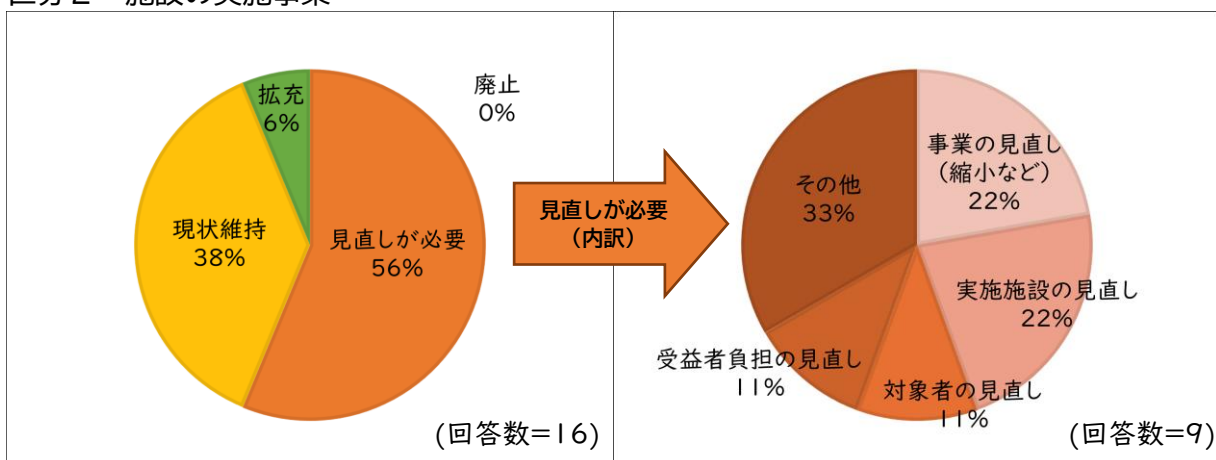
愛南町撮影

《施設レビューでの評価と主なコメント》

区分1 施設のあり方



区分2 施設の実施事業



<区分1 施設のあり方について>

(見直しが必要)

- 集約化(他の施設が加わる)
 - ・ 須ノ川公園・グリーンパークすのかわのキャンプ者に利用してもらうよう、改善策を一体として考える。
- 管理方法の見直し
 - ・ 県との複雑な権利関係を整理し、借地料の見直しもしくは土地の買い上げも考える。
- その他
 - ・ 近隣の熱田温泉が完成すると、利用客が減少する可能性がある。そのため、修繕は現状維持のためではなく大きく行う。

(現状維持)

- ・ 利用者としては愛南町らしさが出ているので町外の人にもおすすめする。
- ・ 指定管理者の頑張りで黒字化に近いのであればそのまま継続でよい。

(拡充)

- ・ 駐車場のキャパシティ不足の解消のため、旧内海中学校グラウンドを駐車場に使用する。
- ・ 旧内海中学校の活用も含め再開発を検討する。

<区分2 施設の実施事業について>

(見直しが必要)

- 事業の見直し(縮小など)
 - ・ キャンプ用食品を販売するなど、キャンプ場との連携を行う。

- サウナは必要ないと思われる（施設の売りになってない）。
- 休憩室の右側を多目的室として活用し、多目的室を団体宿泊室として活用するなど、2階の部屋の活用方法を考える。
- 休憩中に追加でお金を使ってもらえる仕組みを考える。
- 国道横の淡水地を浄化して遊泳できるようにすると付加価値に繋がる。
- 愛南産の食材を使ったメニューやハイエンド層向けのメニュー開発を行う。

(拡充)

- 犬連れの人が食事のできる野外スペースの設置など。

《自分ごと化会議で出された論点別意見のまとめ》

自分ごと化会議では、「エリアのハブとしての収益最大化と機能充実」の視点から協議を行い、以下の論点に対して意見を出しました。

《論点①：エリア連携と施設の方向性について》

《論点②：既存スペース（テラス・2階）の有効活用について》

《論点③：サービス向上と強みの発信について》

《論点①：エリア連携と施設の方向性について》

（須ノ川エリアの飲食・入浴拠点）

- ・ グリーンパークや須ノ川公園のイベント客・キャンプ客向けに食事のデリバリーを行うなど、エリア内での連携を強化する。
- ・ 旧内海中学校グラウンドを駐車場として活用するなど、周辺施設と一体となって運用する。
- ・ 大幅修繕が可能なら、エリア全域と合わせて修繕対応を行い、近隣の新しい温泉施設（熱田温泉）と差別化を図る。

《論点②：既存スペース（テラス・2階）の有効活用について》

（滞在時間の延長）

- ・ テラス席を活用して、海水浴客が水着のまま食事ができるようにする。
- ・ 2階の休憩室は眺めが良いため、オシャレなカフェや、麻雀・将棋などの娯楽ができる空間として充実させる、あるいは宿泊できるようにする。

《論点③：サービス向上と強みの発信について》

（強みの発信とルールの見直し）

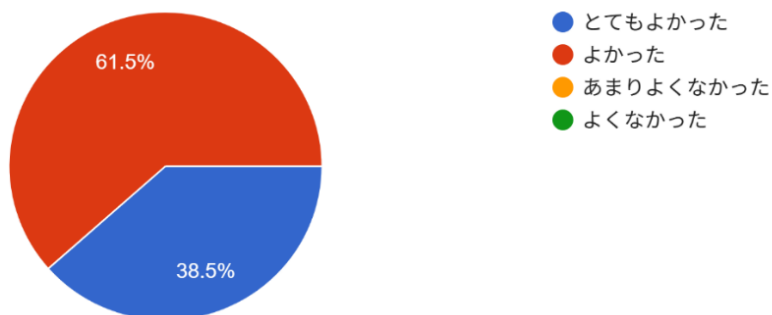
- ・ 掃除が丁寧で接客対応が良いという現状の良さを維持しつつ、施設が完全バリアフリー対応であるという強みをさらに強調してPRする。
- ・ ゆらりを中心としたイベントやサービス向上により、幅広い年齢層にアピールする。

6. 参加者アンケート結果（抜粋）

（1）施設レビュー終了後のアンケート結果

Q. 参加した感想はいかがでしたか。			
とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった
5	8	0	0
【回答の理由】 ※抜粋 ● このような会議に参加する事は、ないのでとても良かったです。 ● 地元の間でも行ったこと、利用したことがない施設もあるのでいろいろ聞いて今後行っておきたいと思った。			

13 件の回答



Q. 全体に関して、ご意見・ご感想がございましたら、ご記入ください。 ※抜粋
● 行ったことのある施設、まだ行ったことのない施設ある中で今後行って利用してみたい施設もあったので今日のメンバーの 1 人として利用してみたいと思う。利用することで今日話を聞いたことを行ってみることで観点が変わることもあるかなと思う。 ● 他所の方の評価が聞けて良かった。町民のシビックプライドが高められるようなクオリティの高い施設ができていくと良いですね。

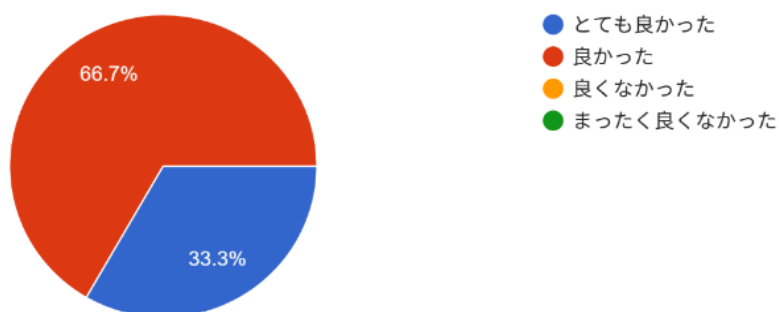
(2) 第1回終了後のアンケート結果

Q. 今日の会議に参加してみてもいかがでしたか。			
とても良かった	良かった	あまり良くなかった	まったく良くなかった
3	6	0	0

【回答の理由】 ※抜粋

- 言いたい事が言えました！

9件の回答



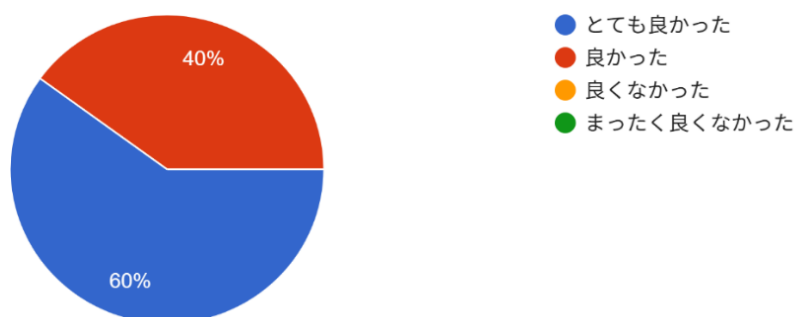
(3) 第2回終了後のアンケート結果

Q. 今日の会議に参加してみてもいかがでしたか。			
とても良かった	良かった	良くなかった	まったく良くなかった
3	2	0	0

【回答の理由】 ※抜粋

- 自分が考えていない意見が色々聞けたこと。
- 聴講だけの最初の方と違って、会議参加者の他の方々の意見も聴く事が出来あつという間に時間が経ち良い会議だったと思います。

5件の回答



Q. 次回以降の会議に向けての要望や今日の感想等がありましたら、ご記入ください。 ※抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ● 初回から頭にはありましたが、実は観光課だけの話ではないかもしれません。 ● 色んな意見と担当者の方からの話も聞けて一度行って見ないといけないと思うこともあった。 ● 自分ごと化会議楽しく参加させていただいたので、次回がラストは残念な気持ちがありますがよろしくお願いします。

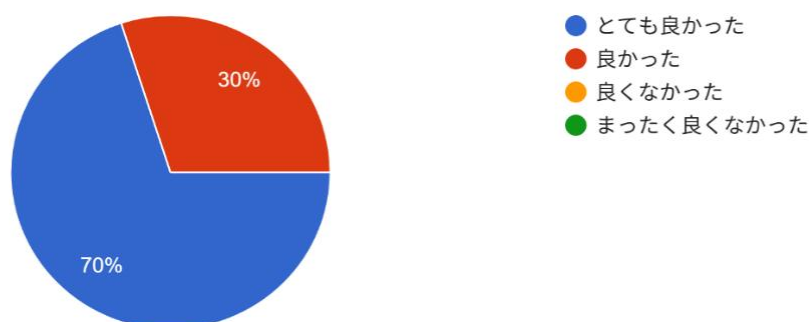
(4) 第3回終了後のアンケート結果

Q. 今日の会議に参加してみてもいかがでしたか。			
とても良かった	良かった	良くなかった	まったく良くなかった
7	3	0	0

【回答の理由】 ※抜粋

- 10人いればそれぞれの意見があって面白かった。
- 他の参加者の方々との意見交換等もあり参加した感がありました。
- 知らない情報もあり、フレッシュなアイデアもあり、考えを再構築できた。

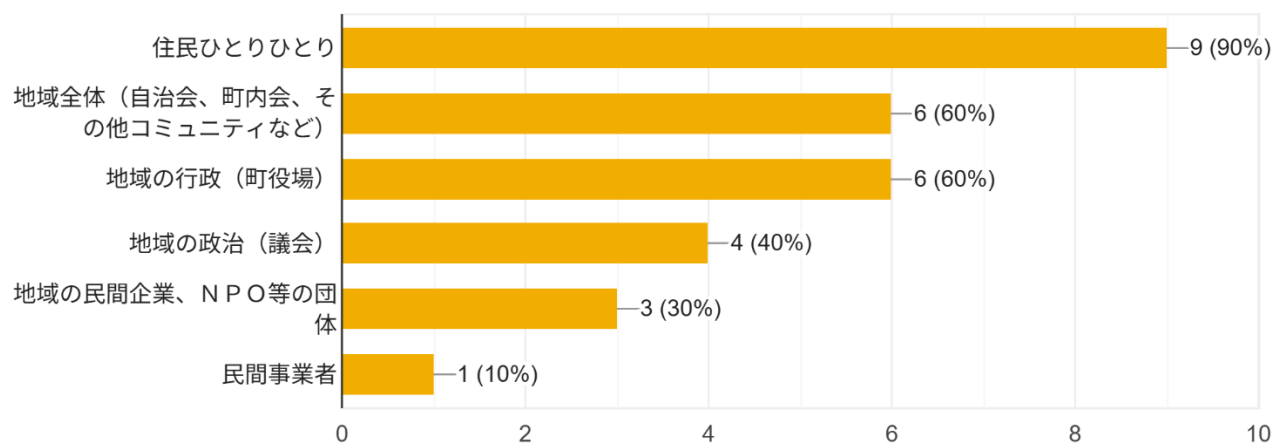
10件の回答



Q. その他、ご意見や感想等があればご記入ください。 ※抜粋
● 町を作るのは住民である「自分」であることを認識し、これから自分ができることを実践していきます！

Q. 町を住みやすくするために、主体的に行動すべきだと思うものは次のうちどれですか。(複数回答可)

※10名回答

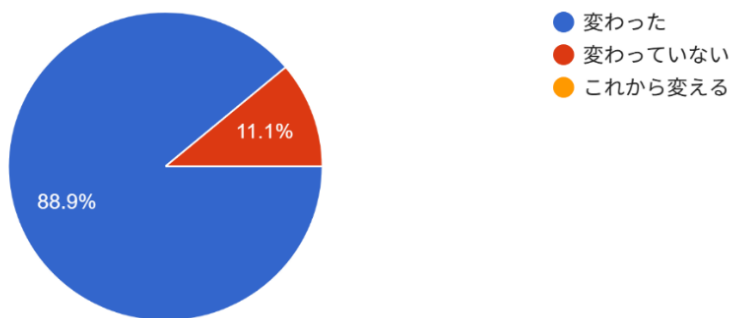


Q. 会議に参加したことで、意識や行動に変化はありましたか。		
変わった	変わっていない	これから変える
8	1	0

【回答の理由】 ※抜粋

- 愛南の魅力の発信が増えた。
- 私自身、テーマを与えられないと動かないタイプ。行動は変わらず、このまま利用を続ける。
- 一般市民の意見は、言う機会もなければ、言ったところで聞き入れられることはないだろうという日和見でいたけれども、今後もこう言う会議が開催されるようなら参加してみたいと思うようになりました。
- 知らない部分も情報を得、広い視野で考えることができた。
- 施設を積極的に利用したいと思った。

9件の回答

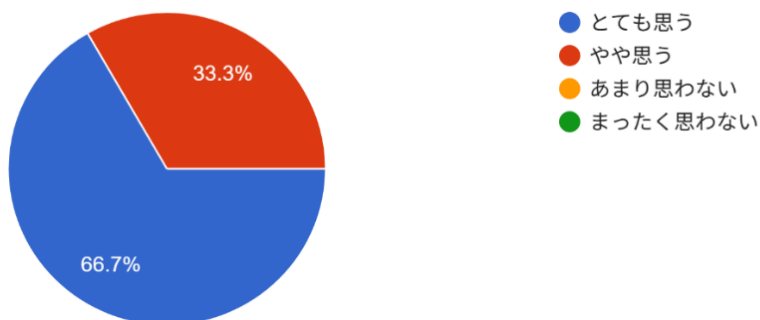


Q. 今後、同じような会議（住民同士で町の課題について対話できる場）があれば、参加したいと思いますか。			
とても思う	やや思う	あまり思わない	まったく思わない
6	3	0	0

【回答の理由】 ※抜粋

- このスタイルの会議なら、皆が感情的にならずに進めていくことが可能だと思う。
- 機会があれば是非。もっと色々な人に参加してほしい。

9件の回答



愛南町自分ごと化会議 提案書

観光施設のあり方

発行日：令和8年3月

発行：愛南町自分ごと化会議メンバー 一同

協力：一般社団法人構想日本

〒102-0093

東京都千代田区平河町 2-9-2 エスパリエ平河町 3F

TEL:03-5275-5607

<https://www.kosonippon.org/>

構想日本